

# 【第5回芝不器男俳句新人賞決定】

～最終選考会及び作品評について～

平成30年4月26日

第5回芝不器男俳句新人賞実行委員会は、本賞の最終選考会を平成30年4月14日(土)、ゆいの森あらかわ ゆいの森ホールにて開催しました(写真別紙)。

愛媛県松野町出身の俳人・芝不器男の名を冠するこの賞は、4年に一度、新鮮な感覚を備え、大きな将来性を有する若い俳人に贈られます。この賞が誘因となって、今世紀の俳句をリードする新たな感性が登場することを支援することを目的としています。

第5回目となる今回は、140作品の応募があり、氏名等応募者の属性を秘匿のまま応募作品(100句/一応募)の討議選考を行いました。最終選考会では、一般公開のもと、一次選考通過34作品の中から、新人賞1名、奨励賞5名、そして全応募作品の中から、特別賞1名を決定しました。

また、授賞式及び受賞者を中心とした若手俳人シンポジウム「俳句革新の方法(仮)」を平成30年6月16日(土) 13:30より、ゆいの森あらかわ ゆいの森ホールにて実施します。

第5回芝不器男俳句新人賞	生駒大祐(58番)
第5回芝不器男俳句新人賞	選考委員奨励賞
城戸朱理奨励賞	表健太郎(38番)
齋藤慎爾奨励賞	菅原慎矢(1番)
対馬康子奨励賞	堀下翔(105番)
中村和弘奨励賞	松本てふこ(13番)
西村我尼吾奨励賞	佐々木貴子(45番)
第5回芝不器男俳句新人賞特別賞	田中惣一郎(71番)

芝不器男俳句新人賞は、この賞をきっかけとして現代俳句の明日を切り開いていくことに貢献するという大きな意義があると考えております。

若い俳人の明日の俳句へのスタートの場として、受賞者の作品を含め、全応募作家の一句一句の重みを明らかにし、現代俳句の発展のために、可能な限り議論が深められるような努力をして参ります。皆様の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

選考委員による、各受賞者に対する作品短評は以下のとおりです。最終選考会の内容は、追ってホームページにて発表させていただきます。

## ■「芝不器男俳句新人賞」受賞者：生駒大祐

季語を肉体化した俳人格を形成し、宗教的ともいえる哲学性を作品の中に内包しながら一つの成熟した世界を形成している。理性と感性のはざまに生ずる無常観とも言うべき静かな悲しみにも似た抒情が全篇に流れ、感動の作品を提示した。まさに現代の芝不器男と言うにふさわしい作品である。

疼痛のたとへば花の水面かな

雲は雨後輝かされて冷し葛

仏壇は真桑瓜より軽からむ

夕立は浮きたつものと皿小鉢

輪の如き一日が過ぎ烏瓜

秋淋し日月ともにひとつゆゑ

## ■「城戸朱理奨励賞」受賞者：表健太郎

近代の俳句は写生から始まった。それは具体から世界を触知する方法だったわけだが、抽象から、鮮やかな具体性を獲得する方法もある。前衛俳句の現在の方位を示すものとして、禍々しい光輝を放つ作品群。

蓮の根を掴めば大地昇るかも

芹摘みの音のみを手に集めゆく

ひらがなは火で綴るべし夏よもぎ

先師みな黒朝顔と言ひて死す

魚（いを）割いて虚ろの空を深くせり

自転車に法衣からむも夏山河

## ■「齋藤慎爾奨励賞」受賞者：菅原慎矢

芝不器男俳句新人賞の決定的転換を告知する稀有の作。俳句の選考会に於いて、今回ほど興奮したことはない。公開審査会に臨んだ諸氏は熱に浮かされたような私の台詞を耳にしたであろう。「さきの戦争に出征した人間が己れの罪と罰を告発した」とか、「自殺しないで生きているスタブローキンが口にした章句」、或いは「二十一世紀とは何か。夜である。実存とは何か。夜、目覚めている者である。」を口にする不条理の哲学者の言葉とも断言した。

曼珠沙華開き放てる帆影かな  
蜃気楼いくつ数へて実の村  
望月や並ぶ仏に顔のなし  
買わないか歴史を変える種袋  
天の川ほとんどいたるところ闇  
人類てふ無縁仏や墓洗ふ

## ■「対馬康子奨励賞」受賞者：堀下翔

近世、近代俳句の方法を真摯に探究し、不易流行の立場に立ち、虚に居て実を实践するなどによりそれを深め、現代俳句を切り開こうと挑戦している。言葉の垢を落とし、姿正しい古典的とも言うべき作風の背後に、現代の若者が避けて通れない、21世紀の巨大な現実に対する繊細な青春の悼みが全篇ににじみ出ている。詩をもって臨もうとする高い志がある。

汀洲の廓寥とある胡瓜かな  
夕照を川は流さず実むらさき  
木仏のつかのま青き雁の頃  
ときじくの躑躅の花の氷りもす  
春の雲花入れし炉のつめたさに  
詩を書いてみた三月の詩が残る

## ■「中村和弘奨励賞」受賞者：松本てふこ

俳句の本質、トリヴィアルな物事から大きな世界へ。  
例えば、肉感的・原初的でエロチックでもある。〈だんじり〉（山車）の天辺で勃っているモノ、祭の孕んでいる根源的な熱気、エクスタシーをこの一点に視覚化して表現。現代人の失われつつある感覚とも。

触れ合へば少しはづんで海月かな  
くちびるに神輿の揺れや祭笛  
風のこれは水辺のなまぐささ  
だんじりのてつぺんにみて勃つてゐる  
湯たんぽにけふの怒りを注ぎけり  
大寒のぬるりとまはる洗濯機

## ■「西村我尼吾奨励賞」受賞者：佐々木貴子

俳諧連歌を超え、独吟100句からなる俳句交響詩は、水無瀬三吟の宇宙観を踏まえながらも、4部構成として、ガイアとしての地球、人類の未来にあるとりとりの鳥の世界、超古代に幻想される巨人譚、そして万緑の獄一光と影の国の音を連想させる壮大なサーガを奏でる。終章を経て宇宙原点のブラックホールへと収斂する予言の詩である。

産声のかたちに春の海しなる  
弓なりの山鈴なりの青時雨  
口中に鳥の臍を飼うや <sup>やもめ</sup> 寡 （※寡のルビは選者が記載）  
星砕くごとく静かに虫砕く  
塵殖ゆる月光骨の佇立かな  
ぐわらがげら杳なる時の長い舌

## ■「特別賞」受賞者：田中惣一郎

見慣れぬ古語をも駆使し、自身の生活感情と花鳥を、すぐには噛み砕きがたい強度を持った耽美的世界に仕立てている。晦渋さが、自意識やイメージが読者に伝わるだけの平板な表現に陥ることを避けさせる。やや鬱屈したロマン主義的心性を、既存の前衛俳句などとは別の様式で「文学」に固めあげていこうとする、ほぼ孤立した特異な試み。

落ちながら椿は吾(われ)や名を忘れ

男猫(をねこ)虎(とら)ほめきに小櫓(こなら)這ひのぼる

花とのみ夢のはたての磧(いしがはら)

石の上(へ)の蛇そこぼくの水を被(き)ぬ

私(わたくし)すなつかし草(ぐさ)の撫でしづく

鎌鼬(かまいたち)木霊(こだま)のなかを動きづめ

## ■一次選考通過作品抄

### 2番 柳原 栄三

反戦の思想を運ぶ蟻がいる

盂蘭盆会みんないるのかいないのか

### 5番 涼野 海音

永き日の海のにほひの石ひとつ

松風に振り返りたる捕虫網

### 14番 抜井 諒一

包み込む息の影ある石罅玉

黒々と降り注ぐ夜の蟬の声

### 20番 福井 たんぽぽ

夫の手の甲の静脈冬木立

靴下のかかとにいつも鎌鼬

2 1 番 高田 獄舎

コンビニの世紀コンビニで母殺され  
黒土に手を入れ蛇との交尾は咎

2 2 番 鈴木 加成太

手に拾ふ音又はあきかぜの鎖骨  
さへづりにまみれて金貨落ちみたる

2 3 番 三品 吏紀

かつを食ふ目には前世の海の青  
遠花火愛の蒸発して永し

2 6 番 豊永 裕美

せんさうは嫌鶏頭が増えるから  
鯛焼きを食みてしづかに湿り合ふ

2 8 番 井口 可奈

異類婚姻譚注釈が夕立  
隙間風文字を知らないひと踊る

3 3 番 北大路 翼

河豚の死に酸素を送る生簀かな  
雪下ろし見てみる梯子を握りしめ

3 4 番 Y 雨日

ビジネスの眼で噴水を消しながら  
目覚めた部屋に知識のやうに金魚鉢

3 5 番 星野 ことと

人死んで煤煙の街花だらけ  
祝祭の街に鹿いる揺らぎかな

4 4 番 八 鍬 爽 風

春泥を靴より剥がし教祖誕生  
レーニンの肖像画に教祖「あつ」と言ふ

5 1 番 佐々木 紺

胡桃触るなじむほどふたしかな手  
ほほゑんでをらねばくるし草の花

5 4 番 秀島 由里子

陽炎也立入禁止区域前  
手袋の分の隙間も嫌だから

5 6 番 中町 とおと

幼子といふかぎろひに近きもの  
いうれいが茗荷の花を喰つてゐた

5 9 番 鈴木 総史

ゆふぞらをランプのごとく石鹼玉  
メロン食ふたちまち湖を作りつつ

6 8 番 黒岩 徳将

端欠けて光る昆虫用ゼリー  
掌が桃を離れて柔らかき

7 8 番 木村 リュウジ

キョウチクトウ嫌いな人の名が綺麗  
鬱になるちょっと手前の白すみれ

8 1 番 三宅 桃子

みな口を小さく持ちて伊勢参り  
向日葵のさまざま割愛されており

84番 山口 貴士

白壁を這う夏服の電気技師  
沈黙の一座見廻す扇風機

87番 渡部 有紀子

ブラインドかざりと折れて風信子  
草笛を吹くとき肩のあがりやう

95番 仮屋 賢一

逃げ道を多く拵へ壬生狂言  
ハンカチは頬の固さにして仕舞ふ

100番 藤田 哲史

ポスターも夙責めの砌です  
弧を引いて離ればなれの燕です

101番 吉田 竜宇

死後も讀書するなり花梨がこはれてゐるけど  
鶴の何處を撃ちてもみどりごやはらかし

107番 青本 瑞季

菊までのなかばを座礁するひかり  
藁が幽霊よりもどつとある

114番 柳元 佑太

ぼうたんの揺るる読経でありにけり  
黒板に桜描かかれて散ることなし

136番 大西 菜生

何万回目の初雪いもうとの庭に  
あたらしいフォントの茶摘唄つたない



## 《第5回芝不器男俳句新人賞について》

### 1. 第5回芝不器男俳句新人賞の概要

#### (1) 目的

新鮮な感覚を備え、大きな将来性を有する若い俳人にこの賞を贈ることで、今世紀の俳句をリードする新たな感性が登場することを支援することを目的とする。

#### (2) 応募総数

140作品

#### (3) 応募条件

昭和53年（1978年）1月1日以降生まれ、応募者が創作した俳句 100句。

#### (4) 募集期間

平成29年11月1日（水）～平成30年1月20日（土）

### 2. 組織

#### (1) 実行委員会

実行委員長	川田誠一	産業技術大学院大学学長
参与	西村我尼吾	俳人
実行委員	小林英夫	早稲田大学名誉教授
	前田充浩	産業技術大学院大学経営倫理研究所長
	中嶋聖雄	早稲田大学自動車部品産業研究所長
	ノグチミエコ	ガラス工芸家
	筑紫磐井	俳人
	横井理恵	俳人
	末光榮子	俳人
フェロー	佐藤文香	俳人

#### (2) 選考委員会

選考委員	城戸朱理	詩人
	齋藤慎爾	俳人
	中村和弘	俳人
	対馬康子	俳人
	西村我尼吾	俳人
特別賞	関悦史	俳人
コーディネーター	筑紫磐井	俳人

#### (3) 事務局

事務局長	齊藤開
事務局次長	越川ミトミ
事務局次長	田中朋子
事務局次長	藤澤貴史
事務局	岩川富江
事務局	山本一章

### 3. 後援・協賛

#### (1) 後援

荒川区＜現代俳句センター＞  
愛媛県  
愛媛県教育委員会  
公益財団法人愛媛県文化振興財団  
松野町  
松野町教育委員会

#### (2) 協賛

ANA ホールディングス株式会社  
株式会社愛媛銀行

#### 【問い合わせ先】

芝不器男俳句新人賞実行委員会事務局  
E-Mail : office@fukiosho.org

別紙

平成30年4月14日（土）13:30～17:00

ゆいの森あらかわ ゆいの森ホール

[東京都荒川区荒川2丁目50-1]

■最終選考会の様子



■受賞者と選考委員



■ガラス工芸作家 ノグチミエコ氏と副賞品

